

まだまだ、寒い日が続いていますね。高校受験や大学受験に合格された皆様、保護者様、おめでとうございます。さて今回は「読書は好き、だけど国語は苦手」というテーマで国語力についてご紹介いたします。子ども達から、「読書は好きだけど国語は苦手なんだよね」という声を聞きます。そこにはどんな原因があるのかというと・・・

原因 1：ナナメ読みする癖がついている

「読書が好きな子のなかには、ストーリーを追うことが楽しくて“ナナメ読み”をしている子も多い。ナナメ読みする癖がついていると、文字を一字一句きちんと読み込まずに、どんどんナナメ読みへと走るようになるのです。国語のテストでは精読する力が求められるため、ナナメ読みの癖は良くありません。

原因 3：論理力が身につかない読み方をしている

国語のテストでは、論理的思考に基づいた読解力が必要不可欠です。原因 2 で述べたように、物語の世界に浸って情緒を育んだり、ストーリーを追いながら感情の起伏を楽しんだりする読書と、論理力を駆使しながら読み解く読書は別物であると考ええると良いでしょう。国語のテスト問題では、素材文（問題を解くために与えられた文章）を読んでいない人でも『ああ、なるほどね』と理解・納得できる答えを求めているため、論理力が問われます。

原因 2：読むジャンルが偏っている

好んで読んでいるジャンルが「小説・物語系」か「説明文・論説系」か、という違いです。

読書好きで国語が苦手という子は、小説や物語ばかりを好んで読む傾向があり、読書好きかつ国語が得意という子は説明文・論説系を読んでいるそうです。物語系と論説系では、文章構造が根本的に異なります。つまり、読んでいるときの“思考のプロセス”がまるで違うのです。

物語・小説系の基本的な文章構造は、時系列に沿っていることが多く、登場人物たちになんらかの出来事が起こり、心情が変化する様子を描写しています。

一方で、説明文・論説系は基本的に「序文・本論・結論」という構造で成り立っており、論理的展開が明確です。

論理的思考力が備わっていないと、国語のテスト問題を
読み解くのは困難でしょう。



少しでも国語が好き・得意になるためにはどうしたらいいか、いくつかご提案します。

<早読みをしない。1冊をじっくり読み込む練習をする>

ナナメ読みの癖がついてしまっているのであれば、精読力をつける工夫が必要です。「早く読む」ことに注目して読むのではなく、「一つ一つをじっくり、何度も読む」ことに注目して練習していきましょう。

<読書の前に“親子の会話”で語彙を増やす>

国語が得意な子の共通点のひとつとして「親子でよく会話をしている」とのこと。もちろん読書は語彙を増やすには最適な手段ですが、言葉の意味が曖昧なままたくさん本を読ませても結局理解できないので、大人がたくさん言葉を投げかけてあげることが大切です。大人と同じように難しい言葉を交えながら会話することで子どもはたくさん言葉を吸収することができます。

<読後は論理的思考力を鍛えるアウトプットをする>

親子で本の感想を語り合う機会をつくるのもおすすめです。ただ「おもしろかった」だけではなく、どんな場面のどんなところに心が動かされたのか、深い部分まで詳しく語り合しましょう。また、「主人公は〇〇したけど、僕だったら△△すると思う」など、自分に置き換えてみるのも、物語への深い理解と考察につながります。

令和5年3月1日発行
放課後等デイサービスかなで
佐々木 千鶴

<お知らせ>

春休み期間の営業について、営業時間の変更をお知らせします。

3月27日(月)～4月5日(水)まで

(月)～(金) 10:00～17:00

(土) 9:00～15:00

4月6日(木)以降は通常営業 13:00～19:00へと営業時間の変更となりますのでお間違えのないようお願いいたします。

利用時間の変更・利用日の追加についてご希望がございましたら、お早めにご連絡いただきますようお願いいたします。

希望が集中する時間帯がございます。可能な限り調整いたしますが、感染拡大対策のため、ご希望に沿わない場合もございます。ご了承くださいませ。自由来所はできませんので必ず予定をお子さまとご確認ください。

